

## 助成年度：平成 12 年度

[所属] 同志社大学 経済学部  
[役職] 教授  
[氏名] 室田 武 (他計 4 名)

[課題]

### グローバル・コモンズ時代の資源管理ルールに関する学際的研究

－東西日本の森林環境フィールド調査からの提言－

[内容]

本共同研究では、コモンズ的な資源管理についての理論と事例研究を行ってきた。その成果物としては、裏面の一覧表にまとめた通りの著者及び論文、エッセイを既に公表している。理論面での大きな貢献としては、多辺田政弘の「コモンズ論－沖縄で玉野井芳郎が見たもの－」（『‘循環型社会’を問う』所収）がある。これには、日本のコモンズ論、とりわけ玉野井芳郎、室田武、中村尚司らを中心とするエントロピー学派が展開してきたコモンズ論が整理されている。

また、事例研究においても、複数の論文・エッセイが誕生している。それらには、財産区制度の制度的特徴に着目して、財産区制度の環境保全的意義を論じた三俣学の「コモンズ論から見た財産区制度の環境保全的意義」『林業経済研究』や宮本常一等の論考を紹介しつつ、共有制度の持つエコロジ的な意義を論じた室田武の「エコロジカルな生き方は私有を超える」『GRAPHICATION』などがある。また、持続的な資源管理に成功したコモンズの内法に関する研究では共有山盟約の変遷過程をまとめ、オストロームらが論じている国際的なコモンズの存立条件との比較を試みた三俣の「明治・大正期における地域共同体（コモンズ）」『森林研究』がある。学校林に関する三俣のエッセイも公表されている。

また、現段階では未公表の論文やエッセイが、本共同研究の成果として、近いうちに公表される予定である。それらには次のようなものがある。

議会制財産区と管理会制財産区の比較を行った室田・三俣共著の「地域の森林保全における財産区制度の現代的意義－岩手県葛巻財産区と静岡県白糸財産区の事例から－」『経済学論叢』（同志社大学経済学会、2002年3月に掲載予定）や、灌漑用水と共有山のコモンズのルールに関する研究を行った三俣と小林志保共著の「共有山と灌漑用水管理をめぐる共的ルールの検討－滋賀県甲賀郡大原地区と高島郡高島地区を事例として－」『エコソフィア』（民族自然史研究会）も既に審査段階に入っている。